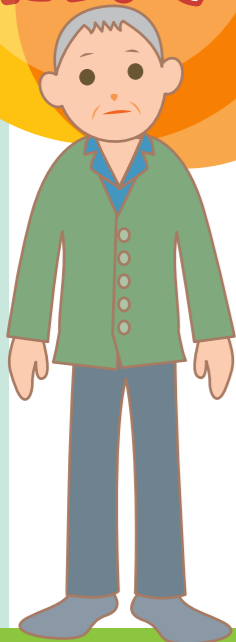


# 夫婦が支え支えられ、安心して生活していくために…

## SITUATION.

### 現在の生活状況について



梅木 友蔵さん (仮名)  
80 歳

#### 身体の状況

要介護度 3、身障手帳 1 級、  
脳梗塞による右片麻痺あり  
年相応のもの忘れはあるが、  
日常生活には問題はない

#### 家族状況

妻と二人暮らし  
一人息子がいるが近隣町村にて居住

#### 福祉サービス利用状況

デイサービス：週 1 回  
訪問看護：週 1 回  
一度だけショートステイを利用

#### 住まい・福祉用具の状況

木造平屋の一戸建て  
玄関の上がり框や、  
トイレ、浴室まで間に段差あり  
手すりの設置はなし  
ポータブルトイレを夜間使用  
居間にベッドをおいて生活

梅木友蔵さんは、脳梗塞の後遺症で右側の手足に不自由があります。妻のハナさん（仮名）と二人暮らしで、食事、排泄、入浴、着替え等の際にハナさんの介助を必要としています。身体の大きい友蔵さんを小柄なハナさんが介助することは力があることですが、自分がみられるうちは家で夫と暮らしたいと考えています。隣町に住む息子さんも、両親を時々訪ねては、入浴等の介助の手伝いをしてくれています。

現在、友蔵さんは介護保険制度の要介護認定では要介護 3 の認定を受け、週 1 回のデイサービスと訪問看護を利用しています。身体の状況は、右側の手足が不自由なので、起き上がりや立ったりする時にハナさんが手を引っ張って手伝いますが、室内では歩行器を利用してなんとか一人で移動できます。訪問看護については、わざわざ自宅に来てもらってまでリハビリをしなくてもデイサービスに行っているからと嫌がりますが、妻に説得され、しぶしぶ行っています。

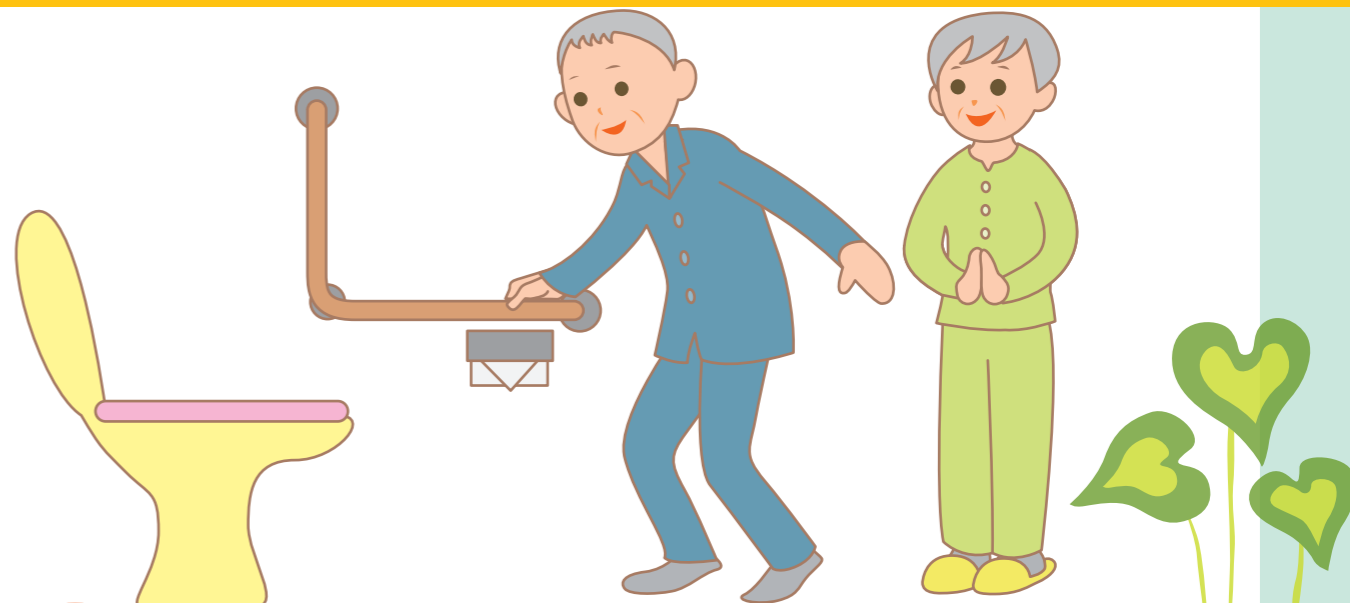
日常生活では、居間にベッドがあるため日中のほとんどを居間で過ごし、食事は左手でスプーンやフォークを使って食べています。お風呂好きな友蔵さんは週 1 回のデイサービスでの入浴の他に自宅でも入浴しますが、浴槽をまたいで入る際や手の届かない所を洗う時はハナさんが手伝っています。更衣など自力でできる部分もありますが、時間がかかるということでハナさんがついつい手をかしてしまいます。排泄は日夜問わず 1 時間おきにトイレに行くほど近く、夜もその都度ハナさんも起きてズボンの上げ下ろしを手伝う介助を行っています。

最近バランスを崩し、浴室やトイレで転倒してしまうことがあり、ハナさん一人では起き上がることができないので、ベッドまで引きずって行って何とか座らせることもありました。

半年前、ハナさんが腰を痛め介助が出来なくなったため、友蔵さんは初めてのショートステイを利用しましたが、最近、再度ショートステイの利用について話をすると、友蔵さんは黙って涙を流し、首を縦には振りません。

家事一切も行っているハナさんにとって、たまに訪ねてくれる同じように介護家族を抱える知人やケアマネジャーを良き相談相手として非常に喜んでいます。しかしハナさんは「歩けなくなったら家ではみられない。施設に入ってもらわなければならない」と夫に頻りに言うようになりました。転倒して尻もちをついてしまうと、体重差もありハナさんではなかなか起き上がらせる事ができません。近所に助けを求める事もありますが、隣人が外出している時など、誰も手伝ってくれなかったら…と、とても不安を感じています。

息子さんも 80 歳を超える両親をこのまま二人で生活させて行くことに不安がありますが、両親の気持ちと身体的な事を考え、今後の生活を思案しています。



## ADVICE. 専門家からの 助言

### 安心して生活していくための 様々な方法や工夫を考えてみましょう。

#### 1 介護者の介護負担軽減のための支援方法を考えましょう。

主な介護者であるハナさんは腰痛の症状があり、夜間も何度も起こされるなど慢性的な疲労状態にあるようです。友蔵さんは再度のショートステイの利用を拒んでいますので、まずは在宅生活場面での訪問介護について利用を考えましょう。トイレや入浴の際にホームヘルパーを利用してハナさんの身体的負担を減らしましょう。

また、なぜ友蔵さんがショートステイを嫌がるのか確認しましょう。「歩けなくなったら、施設に入ってもらおう」というハナさんの言葉で、そのまま家に帰れなくなると心配しての事かもしれません。自宅でハナさんと生活をしていくためにも、デイサービスやショートステイ等のサービスを利用していくことを友蔵さんに話していきましょう。

#### 2 適切な福祉用具の導入、住宅改修を検討しましょう。

友蔵さんは右側の手足が不自由なため、段差のあるトイレや入浴の際に、転倒の危険があるようです。そこで、安心して移動や立ち上がりができるようにトイレや浴室に手すりを設置する事を考えましょう。

また、入浴の際に浴槽の高さに合わせたシャワーチェアが、すのこを敷いて高さを調節し、浴槽をまたがずに一度腰をかけた状態から浴槽に入るとより安全になるでしょう。

#### 3 家族への支援・見守りを続けましょう。

ハナさんは、同じように介護が必要な家族を抱える知人の来訪や、ケアマネジャーの訪問を友蔵さん本人よりも楽しみにしています。

心配な事や不安な事を相談できる事は、ハナさんにとって大切な時間となっています。些細な事でも相談できる関係を保つためにも、友蔵さん夫妻を見守り、安心感の提供を心がけましょう。